

■村上武吉 瀬戸内全域に進出して”日本最大の海賊”となり、村上水軍として存在感すも豊臣秀吉の海賊禁止令で没落した。

むらかみたけよし
・ ・ ・ ・ ・ 1533＝

芸予諸島能島で、200年ほど前に、伊予守護河野家の危機を救って登場した海賊能島村上家隆勝の次男義忠の子に生まれる。幼名は、道祖次郎。
瀬戸内には多数の海賊がおり、そのルーツは、上古の海洋民族国家の末裔と思われるが、主流は、のちに新羅が滅亡した際に、多数渡来したシラギ系海洋民族といわれ、清和源氏を名乗る村上家もその一員であるが、河野氏家臣になってしまった来島村上家、因島村上家とは、対立関係にもなった。能島全体が城になっていて、陸上の武士のように、荘園警固で力を発するうち、逆に押領するようになって、荘園を解体させて行き、室町幕府からは、遣明船警固を命じられるも従わない、極めて御しにくい存在になっていた。
安芸国支配を巡って大内氏と争っていた尼子氏が毛利氏の郡山城を包囲、それに呼応して元敵島の神主だった友田興藤が敵島を攻撃したのを、能島村上家が支援するが、大内軍に敗れる。尼子氏のルーツは京極氏すなわち佐々木氏でシラギ系であったことから半ば当然だったのだろう。

今川義元登場1542＝9歳：
鉄砲伝来・ ・ 1543＝10歳：

能島村上家の主だった(父の兄)義雅が早世すると、その長子義益は病身で”主将”の器でないと、道祖次郎を後継に立てようとする動きが生じてお家騒動となる。
新たに敵島神社神主になった大内方の杉景教が能島に出向いているので、この頃にははまとまり、

勘合船終・ ・ 1547＝14歳：
ザビエル来日1549＝16歳：

織田信長登場1551＝18歳：大内義隆を倒して実権を握った陶晴賢による、敵島での、
大友布教許可1552＝19歳：駄別銭(通行料)徴収禁止の通達の宛先になっており、***能島村上家の統率者の地位を確立している。**
川中島の戦始1553＝20歳：それ以前、関係融和のためか、来島村上家全盛期を築いた通康の娘を妻を迎えていて、長男元吉が誕生。

大陸邦民事件1555＝22歳：毛利元就と陶晴賢が衝突した敵島合戦がおこり、来島家の村上通康が毛利方に参陣して大勝利、以後、毛利氏が瀬戸内の制海権を確保するとともに、村上氏の声望も一気に高まるが、この段階では、能島村上家は陶方についていたようで、
・ ・ ・ ・ ・ 1558＝25歳：次男景親が誕生。
大友府内開港1559＝26歳：**覇権をめざす戦国武将毛利元就からの重なる誘いに応じ、**
桶狭間の戦・1560＝27歳：***九州進出をめざす毛利氏が築いた豊前門司城が、大友氏に攻撃された際、毛利方として参戦、敗れて退却する大友軍を、豊前養島沖合戦で撃破し、戦後、毛利隆元、小早川隆景から感状を送られている。**
川中島最激戦1561＝28歳：

川中島の戦終1564＝31歳：**上**將軍足利義輝による毛利・大友氏の和睦工作が実を結ぶが、その一環として、河野氏を介して毛利氏に和睦を働きかけを命じる御内書が下されているように、すでに、毛利、河野氏と対等の存在になっている。
・ ・ ・ ・ ・ 1566＝33歳：出雲の尼子氏を降伏させると、元就は再び、九州大友氏を攻撃するべく準備、
岐阜楽市楽座1567＝34歳：舅の来島村上家通康が死去。
織田信長入京1568＝35歳：**上**備前児島の武吉家臣の島吉利の守る本太城が、反毛利で動く阿波三好三人衆に攻められるが、頑強に抵抗して守り切る(第一次本太合戦)。この際、かつて三好長慶の家臣だったが阿波三好三人衆と対立するようになった松永久秀と連絡を取っているが、自らは、毛利氏の要請で長門国赤間関(下関)で警固活動、

京都宣教許可1569＝36歳：**上**筑前の大友氏の拠点立花城を陥落させた毛利軍に呼応、撤退する大友軍と豊前田原沖で戦い戦功、
石山合戦始・1570＝37歳：**上**島吉利の勲功に報いて児島近傍の田畠を与えていることから、すでにこの地で所領に及んでいたことも分かる。讃岐国塩飽の廻船業者に、大友宗麟の家臣への便宜を図るよう命じていることから、大友氏へ傾斜し始め、それを察知した毛利氏との間に起請文を交わし、人質まで差し出しているが、
比叡山焼討・1571＝38歳：**上**結局、大友・尼子・浦上氏と結ぶ道を選んで、織田信長の力を頼む毛利氏に反するようになり、備前本太城が、毛利氏に攻撃されて落城(第二次本太合戦)。毛利元就が死去して、後を継いだ孫の輝元により、来島村上家からも、能島城を攻撃されて大敗、大友宗麟に救援を求め、

三方原の戦・1572＝39歳：**上**大友氏が伊予国宇和郡を攻め、宗麟の意向で、能島家と来島家の和睦が実現、能島家は宗麟の自領筑前の港での通行料徴収も認められる。毛利氏もまた、一進一退の戦いを続けてきた浦上氏・宇喜多氏と和睦、
室町幕府滅亡1573＝40歳：**上**織田信長に追放された足利義昭が頼ってきたため、毛利氏が信長と敵対する立場になったため、信長包囲網の中核になった毛利氏陣営に復帰し、
安土城築城・1576＝43歳：***石山本願寺の顕如が織田信長に対して、第一次木津川口合戦が始めると、嫡男元吉ら村上家多数が参陣し大勝、信長陣営は、その攻撃ぶりに驚嘆するが、この間、留守を守り、ここ10年村上家の多くが参加していた連歌寄合のうち、最も大きな寄合に、来島家惣領通総とともに参加している。**

上杉謙信没・1578＝45歳：**上**この年、宗麟から元吉宛てに書状が送られたことから、大友氏とはなお友好関係にあり、武吉から元吉へ、家督が譲られていたことが分かる。**上**勢いに乗った本願寺・毛利陣営は、第二次木津川口合戦に臨むが、信長が九鬼嘉隆に作らせた”鉄の船”を投入したことで大敗となり、
石山合戦終・1580＝47歳：**上**石山本願寺が信長と和睦するに至るもなお、村上水軍が毛利方にあったため、
パリニャノ謁見1581＝48歳：**上**能島家への懐柔策として、織田信長から朱印状が発せられ、
本能寺の変・1582＝49歳：**上**信長の先陣豊臣秀吉の策略で、来島家が河野・毛利氏から離反する事態に、元吉も心動くが、武吉の意向で毛利方に残留し、河野・毛利・能島軍が来島城を攻めるうち、本能寺の変が起こって、秀吉が覇権、

賤ヶ岳の戦・1583＝50歳：**上**河野・毛利・能島軍が鹿島周辺で来島軍を攻めるうち、来島方が秀吉に救いを求め、黒田孝高が安国寺恵現を通じて来島からの撤兵を求め、来島方の鹿島城・恵良城が明け渡されて和平に向かうも、
長久手の戦・1584＝51歳：**上**来島家中による能島家への狼籍が頻繁になり、さらに、来島家通総が帰国する動きに、元吉が国分山城に拵えを始めて抵抗するが、
豊臣秀吉関白1585＝52歳：**上**秀吉から伊予一国を与えられた小早川隆景の調停で落着、通総にも一万四千石が与えられるなか、秀吉の四国攻めとなり、頼りとしてきた河野氏も滅亡。来島家と能島家の”関公事”(通行料利権)をめぐる争いも落着、隆景からは、務司・中述両城の引渡しを求められるに至り、

秀吉太政大臣1586＝53歳：**上**この年、堺から九州に向かって瀬戸内を航海したイエズス会司祭フロイスは、能島村上氏がなお”日本最大の海賊”と書き残しているように伝説化しているが、
パテシ追放令1587＝54歳：**上**秀吉が九州征伐を果たして、隆景が筑前国等を与えられるのに呼応するように、**上**能島を退去したらしく、その後も、秀吉の指示に従わない能島家の賊船行為が問題化して、
刀狩海賊取締1588＝55歳：**上**秀吉により***海賊禁止令が出され、隆景の求めで、九州の(かつての伊都国の地)糸島冠に移住、**
秀吉全国統一1590＝57歳：**上**小田原攻めが終わって、全国統一。**上**致仕したというが、なお、安芸・周防・長門沿岸部に所領があった。
文禄の役・ ・ 1592＝59歳：文禄の役には、元吉・景親らが毛利軍として参陣、来島兄弟は朝鮮出兵軍の船手衆の一員となる。

関白秀次事件1595＝62歳：元吉とともに、**上**長門国大津郡へ移る。
26聖人殉教・1596＝63歳：秀吉と明使が大坂城で会見し、講和交渉が決裂する。
慶長の役・ ・ 1597＝64歳：**上**慶長の役が始まる。**上**最後の後盾小早川隆景が死去し、来島家通総が鳴梁の海戦で討死。
豊臣秀吉没・1598＝65歳：秀吉が死去し、朝鮮に残っていた日本・軍・が帰国。**上**毛利輝元の意向で、安芸国竹原へ移り、能島村上家一門が相次いで、毛利氏への忠誠を誓う血判の起請文を提出。

関ヶ原の戦・1600＝67歳：**上**関ヶ原合戦がおこり、西軍重鎮の毛利輝元に従って出兵した元吉が戦死。毛利氏所領削減で、
朱印船制始・1601＝68歳：**上**周防国屋代島へ退去し、家臣団も離散。孫の道祖次郎(元吉)を養育しながら、転々とするうち、
糸割符法始・1604＝71歳：**上**大島郡森村の隠居屋敷で、没した。